

探訪 北の風景 99

水無海浜温泉 函館市・楸法華地区

青木和弘

道南の渡島半島最東端、恵山岬の波打ち際に、潮の満ち引きで姿を現す露天風呂がある。水無海浜（みずなしかいひん）温泉である。満ち潮になると海中に隠れ、潮が引き始めると姿を現す。浴槽の底から湧き出る50度ほどの湯の泉質は「ナトリウム―塩化物・硫酸塩泉」。海水と混ざって良い湯加減になる。混浴だが水着着用がルールだ。

「恵山の主峰直下より恵山岬が突出し、白亜の灯台と無線羅針局（無線方位信号所・筆者加筆）がある。灯台は明治23年、羅針局は昭和6年の設立。背後に噴煙を巻き上げる険しい恵山を仰ぎ、眼下は白波が岩を噛み、さまざまな思いをのせて行き交う白帆に斜陽の落ちる景色は、一幅の絵画のようだ。その右へ約二町の波打ち際に温泉が湧き出る。潮が引けば岩石を連ねた自然の浴槽となる。そばに灯台守による「愛ハ強シ」と刻んだ巨岩があつて、詩情が深まる。ここを水無温泉という」（同）

自然のままの浴槽がいつまで続いていたのかは分からないが、1983年にコンクリート製になった。しかし、津軽海峡と太平洋を分ける恵山岬の先端だけに、打ち寄せる波は強く、浴槽壁が傷み、浸食が進んだ。さらに利用者から「浴槽の壁が高くて入りにくい」「コンクリートの浴槽は周囲の環境と合わない」という声が寄せられたため、村は2003年に全面改修を行い、海に向かっ



海を眺めながら入る露天風呂は最高だ。沖をゆく船も見られる。入浴可能時間は潮位によって毎日変わるので、インターネットで「水無海浜温泉入浴可能時間」で検索すると、函館市のホームページがあり、年内分の公表データを見ることができるので、訪問の際は利用するといひ（写真は2016年の改修前のもの）

て右側に岩を積んだタテ2メートル、横10メートル、深さ80センチのメイン浴槽と、段差を付けた二つの浴槽を設けた。堤防に近い左側には足湯を造った。男女別の更衣室や案内板も新設した。改修工事の前年に当時の函館土木現業所が岩礁を思わせる防波堤を造っていて、改修した露天風呂との間は海水浴ゾーンになった。その後、高波被害などがあり、何度かの改修を経ている。

なんせ満潮時は海に没する浴槽だから、いろいろなものが進入する。大改修を前にした2000年当時は、5月ごろになるとイワシの大群が押し寄せ、満潮で浴槽に入り込み、干潮になって取り残されたイワシが温泉でゆで上がって脂臭くなることもあった。また、タコが迷い込んだとか、大きなマンボウが流れて来たという話もあったが、函館市の楸法華支所の担当者は、「近年はこうした話は聞いたことがない」といひ。



「ここは先住民には古くから知られていた場所だと思われ、松浦武四郎の蝦夷日誌の1847（弘化4）年5月の記録に、「水無、少しの砂浜。水無なのでこの名なのだろう。昆布取りの小屋があり、人家も二、三軒ある」（筆者現代訳）とある。楸法華（とどほつけ）村史には「村の古老の語るところによれば、明治の初め頃より村民によく利用されていたといひ伝えられている」（同）とし、



2003年に大改修され、景観に合わせた岩組みの浴槽になった。メイン浴槽の沖側に段差を付けて少し低い位置に、4m×3mの浴槽が2つある。潮位が少し下がったときに利用できる。温泉は浴槽の底から湧き出ている海水とまざって適温になる。元旦には、湯につかりながらご来光を眺めようという温泉マニアも訪れる

7、8月は海水浴を兼ねた利用者が多い。岩場で小さなカニが見つかることもあり、親子で磯遊びを楽しむ家族連れの姿も見られる。

「フナ虫が気持ち悪い」と入浴を嫌がる人もいるが、フナ虫は水に入らないので、潮が引いて浴槽のまわりがぬれているようなときは現れないようだ。入浴可能時間は、インターネットで「水無海浜温泉入浴可能時間」と検索するとすぐ見つかる。

せっかくなので、恵山エリアのめずらしい温泉を紹介しよう。まず、「恵山温泉旅館」の湯だ。恵山の地獄谷から引いた成分の濃い酸性泉で、肌あたりがキシキシして湯上がりがさっぱりする希少な湯である。もう一つ、恵山港近くにある「御崎温泉浜の湯」は町内会が管理している無人の混合温泉。水着もバスタオルも禁止なので、女性は利用しづらいが、泉質が抜群なので、ここも温泉ファンは見逃せない。



入浴可能時間を知らせる看板。高波や悪天候のときはとても危険なので入浴しないようにしよう



男女別脱衣所。温泉は混合だが、海水浴客もいるので水着着用のルール。トイレは道路入り口近くにある